

令和4年度(2022年度)第3回北海道病院事業推進委員会議事録

1 日時

令和4年(2022年)12月12日(月)18:00~19:10

2 場所

Web開催(委員長及び道側は、道庁別館3階病院事業管理者室、各委員は各委員の職場等から参加)

3 出席者

(1) 北海道病院事業推進委員会委員

小熊 豊委員長(砂川市立病院 名誉院長)
土橋和文委員(札幌医科大学附属病院病院長)
寺田昌人委員(寺田公認会計士事務所代表)
松原良次委員(特定医療法人社団慶愛会札幌花園病院院長)

(2) 北海道(事務局:道立病院局)

鈴木信寛	病院事業管理者
道場 満	道立病院部長
畑島久雄	道立病院局次長
山中 剛	道立病院局次長
野尻彰生	道立病院局病院経営課長
石井安彦	道立病院局人材確保対策室長
有村誠一郎	道立病院局経営改革課長兼指定管理室長
小俣憲治	経営改革推進指導員 ほか

4 議事

【事務局】

ただいまから、令和4年度第3回北海道病院事業推進委員会を開催いたします。はじめに、委員の出席状況についてご報告します。本日は、小熊委員長、土橋委員、寺田委員、松原委員のご出席をいただいております。なお、奥村委員におかれましては、ご都合によりご欠席となっております。

それでは開会にあたりまして、鈴木病院事業管理者よりご挨拶申し上げます。

【事務局】

病院事業管理者の鈴木です。委員会の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、年末のお忙しい中、本年度、第3回目の「北海道病院事業推進委員会」にご出席いただき、深く感謝申し上げます。

8月に開催した第2回目の委員会では、令和3年度の点検・評価結果について取りまとめを行い、その結果については、9月12日に開催されました北海道議会保健福祉委員会に報告したほか、先月7日の決算特別委員会では、病院事業の運営に関し、コロナ対応をはじめ、患者の確保対策など様々な経営改善の取組について、質疑やご意見をいただいたところです。

本日の委員会では、今年度の上半期の実績を踏まえたプランや各病院の取組方針に対する自己点検・評価の結果についてご議論やご意見をいただくこととしており、各委員の皆様には、それぞれ専門的な見地から、忌憚のないご意見、ご助言を賜りますようお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。それでは、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

次に、資料の確認をさせていただきます。お手元に「令和4年度（2022年度）上半期 北海道病院事業改革推進プラン自己点検・評価書（案）」をお配りしております。また、参考資料といたしまして、「令和4年度（2022年度）上半期 道立病院経営状況・取組実績」をお配りしておりますので、後程ご確認いただければと思います。

それでは、ここからの進行につきましては小熊委員長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【委員長】

皆様、ご苦労様です。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

本日の議題は、ただいまご案内ありましたように、「令和4年度上半期 北海道病院事業改革推進プラン自己点検・評価書（案）」についてです。まずは進め方等について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

病院経営課の丹と申します。よろしくお願いいたします。

まず、資料の表紙をご覧ください。プランの自己点検・評価につきましては、第1章で経営改善に向けた評価、第2章で病院別評価、第3章で全体評価を行っております。

表紙の裏面をご覧ください。第1章の経営改善に向けた評価では、プランに掲げております（1）収益の確保、4ページの（2）費用の縮減、5ページの（3）経営基盤の強化、9ページの（4）職員の経営改革意識の向上、これら4分野について、それぞれの取組項目に対する自己点検・評価を右枠に記載しております。

次に、第2章、病院別評価では、10ページから28ページにかけて、各病院毎に自己点検・評価をしております。

次に、29ページ、第3章、全体評価については、コドモックルの療育部門を除いた、プラン全体の上半期実績、自己点検・評価を記載しております。

最後に、第1章から第3章共通となりますが、各章の後段「委員会点検・評価（委員長私案）」については、小熊委員長確認のもと、お示ししております。

このあと、自己点検・評価結果の主なものについて、事務局から説明の後に、委員の皆様のご質問やご意見を踏まえ、最終的に委員会としての点検・評価とさせていただきます。

【委員長】

ありがとうございます。それでは早速ですが、第1章につきまして、ご説明をお願いいたします。

【事務局】

引き続き私からご説明させていただきます。お時間の都合もございますので、主に新規・拡充した取組や各病院の特徴的な取組につきまして、ご説明をさせていただきます。

資料1「第1章 経営改善に向けた評価」について説明。

【委員長】

ありがとうございます。今お話いただいたように、各病院がやれるところから経営改善に取り組んでいるというのが分かると思いますが、委員の皆様方、何かご質問、追加等ございますか。よろしいですか。

私の方からひとつ聞きたいのが、江差病院の共同購買事業というのは、連携推進法人でやったのですか。

【事務局】

最初のきっかけとしては連携推進法人で価格交渉するという事業がございましたが、そうした中、医療材料の価格交渉をメーカーと直接代行でする民間業者の方からお声がけいただいて、まずは初年度、江差病院で試験的にやってみようということで今年度から開始した事業になります。今後、効果を検証しまして、他の病院にも導入できるかどうか検討していきたいと考えております。

【委員長】

道の場合は本庁一括で買えるメリットがあるので、比較的そういう動きが出るというかなと思っておりますけど。

さて、それではただ今第1章につきまして経営改善に向けた色々な動きをご説明いただいて、このコロナ禍で皆さん本当に頑張っているらしい。それから人を増やすことができたというのはすごいですね、なかなか簡単にはいかないと思っておりますけど、医師や看護師、医師事務作業補助者も含めて、よく確保できましたね。増やすに当たって条件を良くしたとか、あるのですか。

【事務局】

ありがとうございます。医師に関しては、定数を増やして、コドモックルの循環器科に関しては色々な先生が来てくださっていますが、看護師に関してはかなり苦戦している状況は継続しております。これには色々要因があると思うのですが、採用活動の中での情報としては、例えば、うちも採用活動の中で色々なところに出て行っているのですが、通常であれば参加しないようなイベントに、コロナ禍ということもあり、大学病院からも出席しているというような状況にあります。一つには、私の兼務先の関係の仕事でもあるのですが、コロナ関係で非常勤の看護師の雇用がものすごく増えております。ワクチンもそうですし各保健所でも非常勤の看護師を雇用している状況にありますので、特に年度内の募集において、社会人からの応募というのがここ1、2年でかなり少ないという状況になっており、かなり苦戦しているという状況ではございます。ただ民間の人材派遣会社のWeb広告などを出しますと、実際にページへの訪問数などの情報もいただいておりますので、公立病院ということもあって、一定の関心はも

っていただいておりますので、今現在では厳しい状況ではありますが、引き続き様々な活動を通じて得られた情報を活かして、欠員が続いている職種に関しては、採用活動を強化していきたいと思っております。

【委員長】

ご説明ありがとうございました。いずれにしましても、必要な人を必要なところに配置して、医療の中身を上げて、というのが大きな課題として以前からお話がありましたので、引き続き取り組んでいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは、委員の皆様方から追加、訂正、質問がないようですので、先に進みたいと思いません。よろしいでしょうか。

それでは、第2章の病院別評価について、ご説明をお願いいたします。

【事務局】

資料1「第2章 病院別評価 (1) 江差病院」について説明

【委員長】

ありがとうございます。伊藤院長、事務長、総看護師長から何か追加することはありますか。

【事務局】

今ありましたように、ドクターズミーティングや大学との取組で、経営改善につながる取組ができはじめたところなんです。残念ながらコロナ禍の影響でイベントが中止になったり、対面のものができなかつたりして、いまいち十分に伸ばし切れていない印象がありますけど、これからもう少し環境を整えば、もう少し伸ばしていけるかなというふうに思っております。

精神科に関しては、夏以降、コロナの感染で看護師をはじめとするスタッフが欠けるような状態が相当でてきましたことから、現在やむを得ず、1階病棟と一般病棟を統合した形で運営しております。当然、関係機関と精神科病棟の休止に向けて動き始めてはいますが、当初の予定よりは、遅れているというか、難しい問題だなというのを実感しているところです。

【委員長】

ありがとうございます。大きく分けて三つ、一つが連携推進法人関係、もう一つが札幌医大との遠隔医療や派遣を含めたこと、もう一つが精神科ですね。いずれにしても、このご時世で遠隔地ということもありますが、よく頑張られているという印象は持ちますが、何かご意見ございませんでしょうか。土橋委員いかがですか。

【委員】

こちらこそ大変有益なフィールドを与えていただきまして、私どもの学生そして卒業生、そして私どもと必ずしも関係はございませんけれども、地域医療に非常にマインドを持った方々からの問い合わせがたくさん来ておりますし、江差病院にも来ていますと承知しておりますので、今がチャンスというふうに捉えまして、全国のモデルのようなケースとなるよう頑張りたいと思います。ありがとうございます。

【委員長】

ただいま土橋委員からコメントをいただきましたが、まさにそういう方向性を持って、江差は今後、進んでいただきたいと思います。

他にご意見よろしいですか。寺田委員いかがですか。

【委員】

一点だけいいですか。数字のところ、13 ページの入院収益が前年度比 12%UP、左下の表中の入院単価を見ても達成率 122.1%とかなり単価が上がっているのですが、これの理由は、私だけが分からないと思っているんですが、皆さんお分かりなのでしょうけど、これを教えていただければと思います。

【事務局】

要因としましては、手術件数が増加しているということに加えて、コロナによる入院患者についても昨年より多く受け入れていることなどが、単価 UP の主な要因と考えております。

【委員】

他の病院ですと達成率が悪かったりするのですが、江差病院だけ何か特別な事情があったというわけではないのですね。

【事務局】

昨年度との比較になりますので、昨年度、整形外科で手術件数が落ちてしまったということがありますので、それとの比較となると上がっている、というふうにご理解いただければと思います。

【委員】

昨年の方がむしろ落ち込んでいたという理解でよろしいですか。分かりました。

【委員長】

松原委員、精神科のことで何かありますか。

【委員】

いえ、特にございません。

【委員長】

先程もいいましたが、今後に向かって、どんどん方向性が高まってきていますので、頑張ってくださいと思います。続きまして、羽幌病院のご説明をお願いします。

【事務局】

資料 1 「第 2 章 病院別評価 (2) 羽幌病院」について説明

【委員長】

ありがとうございます。阿部院長、何か追加ございますか。

【事務局】

はい。メインとなる総合診療医が去年から今年にかけて、6名から3名に減りまして、その中では減収となっていますが、各自頑張っているところです。また、看護部もコロナ病床の運営にあたっては、管理職含めて各部門から5名の看護師を捻出してコロナ病床をまわっていて、院内、人的パワーとしては、かなり疲弊しながらもなんとかこの1年しのいで頑張っております。

【委員長】

ありがとうございます。残念ながら医師が減ってしまったという問題がありますけれども、当初の総合診療を中心とした体制を進める動きで引き続き頑張りたいと理解できると思いますが。委員の皆様方から何かご意見とかご質問とかございますか。

よろしいですか。引き続き、阿部院長を中心に頑張っていたらと思います。よろしくをお願いします。

それでは、次の緑ヶ丘病院の説明をお願いします。

【事務局】

資料1「第2章 病院別評価 (3) 緑ヶ丘病院」について説明

【委員長】

ありがとうございます。林院長、何か追加ございますか。

【事務局】

精神保健福祉士の予診で新規患者が増えたというよりも、やはり、新規の患者の待ち時間が短くなったというのが一番実感としてあります。前は1ヶ月～2ヶ月くらいだったのが、最近1ヶ月以内でなんとか外来で対応できるようになったのは大きいかなと思っています。

【委員長】

ありがとうございます。松原委員、ご意見ありますでしょうか。

【委員】

いえ、特にございません。

【委員長】

お話を聞いてて、とにかく色々なことを取り組んでいただいて頑張っているというふうに思います。待ち時間もさらに縮められるともっと良いと思います。ぜひこの方向性でお進めいただければと思います。他のお二人の委員、ご意見ありませんか。

それでは、今お話のあった方向性でさらに進めていただければと思います。

次に、向陽ヶ丘病院のご説明をお願いします。

【事務局】

資料1「第2章 病院別評価 (4) 向陽ヶ丘病院」について説明

【委員長】

ありがとうございます。三上院長、何か追加ございますか。

【事務局】

追加は特にございませんが、入院に関しまして、退院の支援はスムーズに進んでは行くのですが、新たに患者さんが入院してこなくて、結果的に入院患者数が相当減ってはいるのですが、引き続き色々検討して、努力していきます。

【委員長】

ありがとうございます。一生懸命頑張っているのはお話聞いて分かったのですが、松原委員いかがですか。

【委員】

色々工夫されて努力されていると思いますので、特に付け加えることはございません。

【委員長】

ありがとうございます。広報をしたり、色々ご検討いただいていると思います。コロナ禍ですので思ったようにいかないのは当然ですけど、引き続き継続して頑張っていただければと思います。土橋委員、寺田委員、よろしいですか。

では次に、コドモックルの説明お願いいたします。

【事務局】

資料1「第2章 病院別評価 (5) 子ども総合医療・療育センター」について説明

【委員長】

ありがとうございます。續センター長、何か追加ございますか。

【事務局】

ありがとうございます。續でございます。DPCに関しては、病院局の方達と一緒に取り組んで、DPCで少しでも良くなるように、外来の充実化とか色々なことを勉強しました。資料に記載はなかったのですが、働き方改革のことで、宿日直許可の取得に向け努力しております。全部は取り切れないかもしれませんが、少しずつ進んでいきたいと思います。あと、心臓血管外科の手術を第一優先にしていますが、スタッフが濃厚接触者とか、すごく少なくなってしまうので、そのために脳外科の先生とか、小児外科の先生に協力していただいて、耳鼻科もそうですし、眼科もそうですけど、待てる手術は待っていただいて、5割くらいまで縮減させたという

こともございまして、それでちょっと低くなっているのかなと思います。

もう一ついい話としては、集中治療科という PICU で、心臓血管外科の先生が手術だけに頑張ってくださいということで、術後の管理のことで、暫定ですが二人つけていただいて、本当に良かったと思います。子ども達が本当に楽になるんですね、本当に素晴らしいことだなと思います。感謝しています。ありがとうございます。

【委員長】

ありがとうございます。鈴木病院事業管理者もご専門だと思いますが、コメントありますか。

【事務局】

PICU に関するテレビドラマの影響もあり、コドモックルについてずいぶんと PR しているように感じています。これまでコドモックルのことをあまり知らなかった全道の方にもかなり周知していただいていると思いますので、これを機会にさらに頑張ってくださいと思います。よろしく願いいたします。

【委員長】

土橋委員のところともタイアップして、方向性をもっと高めていくといいんじゃないかと僕は思うんですけど、土橋委員、何かありますか。

【委員】

総論としての方向はよく分かりますが、各論に落とし込むときはけっこう、色々なことが起こってしまって、必ずしも期待に添えないのですが、申し訳なく思います。

【委員長】

DPC の導入に向けて、あるいは在宅療養者とか、先ほども何人か入院させたってことでしたが、引き続きコドモックルとして果たすべき役割を進めていただければと思います。

それでは、各病院の個別の意見などは終わりました、第 3 章の全体評価について説明をお願いいたします。

【事務局】

資料 1 「第 3 章 全体評価」について説明

【委員長】

ありがとうございます。ただいま全体評価ということをご説明いただきましたが、ここに書いてある内容が、本日の委員会のまとめと理解していいと思いますが、委員の皆様方、追加やご質問ございますか。よろしいですか。

<委員 同意>

コロナという、今どの病院も医療従事者不足で、患者数も減っていて大変苦労されている状

況です。道立病院のみが苦勞している訳ではないので、今までの動きはやむを得ないような気がいたしますので、引き続き各病院がご努力されていることを継続していただければいいのではないかと思います。

それで、委員会としてのまとめは、委員会点検・評価に記載のとおりとしたいと思います。ありがとうございます。

それでは全体を通して何かご意見とか、言っておきたいこととかございませんでしょうか。

【委員】

これは意見とかではないのですが、私どもの附属病院を経営していく段階で困っていることがございます。一つ目は、電気・ガス代の上昇。これが予想に反して大きいというところがあるので、道立病院はどうしているのかな、というのを伺いたい。

それから、物品の方で、いわゆる特定医療材料については価格が決まっておりますからよろしいのですが、非特定医材の値上がりという問題がかなり起きてきてまして、こちらのほうをどうするのか、今のうちに対策をとっておいた方がいいだろうと思っています。

それから二点目が、電子診療録の中のいわゆる医師のライセンスをとってやっていくという部門が、来春動かさせて言っているんですが、なかなか準備できていないんですね、道立病院ではどうしているのかお伺いしたい。

【委員長】

土橋委員のご質問二点ありましたけど、お答えできる方いらっしゃいますか。

【事務局】

まず電気、ガスなどの光熱水費でございますが、我々も毎月の状況を見まして大変なことになっております。また、北海道として医療機関への支援というのが検討されていると聞いておりますが、どれだけの額を支援してもらえるのか、今のところまだ明確になっておりません。現状、灯油等を使わないというわけにはいきませんので、なんとか堪えていくしかないのかなというような状況でございます。

【委員長】

材料費はどうですか。

【事務局】

材料費につきましても、ご指摘のとおり、価格が非常に高騰する傾向にあります。先ほども申し上げたとおり、共同購入などを活用しながら、可能な限り物価高騰に対応していきたいと考えております。

【委員長】

はい、ありがとうございます。

結局、都道府県でこういった物価高騰に対して、補助を出すという動きがあるのですが、北海道はまだ分かっていないのですか、具体的に。でもまあ、色々な人の話を聞くと、上昇率に

比して、支援率は低いということで、皆さん本当に苦勞されているみたいですね。電気代と灯油代が3割以上あがっていますからね。土橋委員、札幌医大は大変だと思いますけど、規模が大きいから。大学の先生方からもそういう悩みが出てますよね。

【委員】

はい、本当に大きいので。額にすると「えっ」ってなりますね。

【委員長】

ぜひ、頑張ってください。

【委員】

ありがとうございます。

【委員長】

それでは、ご説明も大体終わって、皆さんのご意見としてはここに記載のとおりで大体よろしいんじゃないかと。そのまま継続して、コロナ禍ではありますけど、頑張っていたきたいと思います。ということでまとめとさせていただきます、本日の会を終了したいと思います。事務局から何かありますか。

【事務局】

それでは、次回の委員会につきましては、年明け3月の開催を予定しております。改めまして、事務局から日程調整させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【委員長】

どうもありがとうございました。それではこれで、本日は終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。